

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
山脇美術専門学校		昭和51年6月1日		川上 信昭		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人山脇服飾美術学院		昭和22年11月17日		清水 カツ子		〒 102-0074 (住所) 東京都千代田区九段南4-8-21 (電話) 03-3264-4020																													
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	美術専門課程	スペースデザイン科	平成29(2017)年度	-	令和 5(2023)年度																														
学科の目的	建築やインテリア・エクステリアデザインなどスペースデザイン分野に従事しようとする者に、企業等と連携の上で専門性の高い知識及び技術・技能を修得させるとともに感性豊かな即戦力を育み社会に貢献出来る人材を輩出する事を目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	住宅設計、店舗デザイン、インテリアデザインなどを幅広く学修し、卒業と同時に二級建築士の受験資格が付与され、商業施設士、インテリアデザイナーなどの資格取得を目指している。中退率は2%程度で進路変更が主な理由である。																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																											
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,150 単位時間 〇〇 単位		306 単位時間 〇〇 単位	2,970 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)																															
54人	34人	1人		3%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>14</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>86</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>なし</p> <p>(令和 4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 建築事務所、家具・店舗デザイン会社、施工管理会社、ディスプレイ会社他。</p>							■卒業者数(C)	14	人	■就職希望者数(D)	14	人	■就職者数(E)	14	人	■地元就職者数(F)	12	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	86	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	14	人																																	
■就職希望者数(D)	14	人																																	
■就職者数(E)	14	人																																	
■地元就職者数(F)	12	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	86	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有る場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 〇〇〇〇 受審年月: 〇年〇月 評価結果を掲載したホームページURL 〇〇〇〇</p>																																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://yamawaki.ac.jp/introduction/space/">https://yamawaki.ac.jp/introduction/space/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>3,150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>339 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>3,024 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>339 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>							総授業時数	3,150 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	339 単位時間	うち必修授業時数	3,024 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	339 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位
総授業時数	3,150 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	339 単位時間																																		
うち必修授業時数	3,024 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	339 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総授業時数	〇〇 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																		
うち必修授業時数	〇〇 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計	4人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校は建学の理念である「美と創造の精神」の完成を目指し、豊かな情緒と個性的な想像力を身に付けた人材を育成するための教育の実践を教育目標としている。この目標達成のために、基礎的知識・技術から専門的知識・技術まで修得し、業界の最新情報を把握し、各企業等で即戦力として活躍できる高度な知識・技術を持った実践力のある人材を育成するための教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長のもとに設置し、本校の教育課程や職業実践及び企業との連携等について諮り、意見・要望等については教務課を担当部署として検討し、これら意見・要望等および検討結果は教務課長と学科長が調整・協議したのち、学校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山田 祐照	一般社団法人日本空間デザイン協会 理事	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	①
田崎 冬樹	横浜美術大学美術学部美術デザイン学科准教授	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	②
高橋 夏奈	株式会社アダストリア	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
左 知子	HASAS	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
樋口 誠	株式会社ネオタイト建築計画	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
相庭 聡	株式会社ケイ・ウノ	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
川上 信昭	山脇美術専門学校 学校長(全体会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
清水 裕子	同 スペースデザイン科 科長(分科会委員長)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
篠原 一郎	同 教務課 課長(スペースデザイン科講師)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—
福澤 清子	同 教務課 専任(スペースデザイン科助手)	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月2日 15:00～16:50

第2回 令和5年3月3日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回委員会

①教育課程の編成や企業連携についての意見交換

「現場のニーズを鑑みて、今後、3Dソフトの検討を視野に入れている。」「他校の事例をあげて、山脇でも企業やデパートなどと連携して課題制作する等、何かできないか提案があった。今後の課題・模索事項とした。」

②業界動向や企業の求める人材についての意見交換

「デジタルツールの活用により、仕事のスピードは向上している。また、残業を削減するために、効率的に仕事を進めることが求められている。」「学生は、苦手なことでも回り道をして成功体験を積むことで、コミュニケーション能力やチームワークを高めることができる。」「企業は自社の利益を優先するため、学生の著作権を守ることも重要である。」「専門学生は、大学生と比較してしまう傾向にある。山脇は3年制に移行してから大学生と引き目は感じない。」「スウェーデンでは、学校で自分の好きなことを言語化する重要性を学ぶ。」「学生に1年間かけて何かを継続させることで、自信や根気、継続性をアピールできるのではないか。」

③山脇祭の展示を視察し、実際に成果物を見ながら学生の習熟度や制作プロセス等について具体的な意見や講評をいただいた。その後、科内や学生ヘフィードバックをおこなった。

第2回委員会

①企業連携の在り方について、これまでの取り組みの進捗状況や成果について、科長より報告があった。また、今後の取り組みについて活発な意見交換があった。要約すると「企業側からの講評や評価の具体的化」「学生へ現場経験の機会の提供」「実習や見学先の理解促進」これらの取り組みを通じて、学生が企業で活躍できる人材として成長できるような支援が重要であることを共有しあった。具体的に次のような意見があった。「企業の展示会をコンペティションにして、初めから最後まで筋道を通して作業をさせる。」「企業に対して何を求め、何を評価してもらいたいフォーマット化する。」「連携授業で学んだことを踏まえて、学生自身に提案させる。」「企業側のインターン受け入れが減少傾向にあること、学生が授業で実践的な経験が不足していること、企業連携の具体的な取り組みがさらに必要。」「現場経験の機会については、町工場やものづくりの協会と組んで、学生が実際にものづくりを体験する機会を提供できるのではないか。」「見学先の特徴や見方を事前に丁寧伝えることで、見学先の理解促進につなげる。」「学生が自ら積極的に学ぶ姿勢も重要。」

②業界動向や企業の求める人材について、企業の取り組みや課題など情報交換をした。具体的に次のような対策する意見があった。「新卒社員のメンタルヘルスのサポートが重要になり、様々な工夫をしている」「異業種からの中途採用者は継続する傾向がある。」「学生は学歴にとらわれず、自分の興味や適性に合わせて就職先を選ぶことが大切と思う。」「企業へ企業説明会の場を設けてもらうよう、積極的に依頼したほうが良い。そこから徐々に人事と繋がると思う。」

③教育課程の編成やシラバスに関し、就活で企業先に提出するポートフォリオの制作がなかなか進まないという課題について、次のような対策する意見が出された。「ポートフォリオのサイズやスタイル、フォーマットなどを最初に決めておくと、積み重ねて作っていくことができる。」「ネットでポートフォリオの作り方の情報はたくさんあるので、検索を促すことで、学生が自分で調べて学ぶことができる。」「各委員の意見を受けて、今後の授業の中でポートフォリオやプレゼンテーションの能力を高める工夫を検討していくこととした。」

④展示作品(卒業制作、進級制作、後期課題作品)を見ながら科長より課題や学生個々についての説明があり、具体的な意見や講評をいただいた。その後、科内や学生ヘフィードバックをおこなった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

・「職業教育に係る連携授業の実施に関する内規」に基づき、関連分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲の醸成と、専門分野の実務に必要なとなる知識、技術及び技能の修得又は向上に資する教育等を内容とする。  
 ・デザインに関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、授業における作品制作の課題設定やプレゼンテーションを行うにあたり、教育内容に関連するノウハウ等の提供などの協力が得られる企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・「職業教育に係る連携協定書」に基づき、関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導担当者として人材の派遣を受ける。  
 ・授業科目担当教員と企業の講師が、授業の前に事前打ち合わせを行い、講義・実技指導などの内容や、学修成果の達成度評価指標等について定める。企業の講師が作品企画の着眼点や課題の制作での専門性の高い助言や技術指導を行うなど担当教員と連携しながら授業運営を行う。  
 ・企業の講師から得られた助言等を生かし、進行チェックでの完成度、テーマ及びプレゼンテーション資料の充実度・完成度、企画プレゼンテーションの発表内容などの評価項目をあらかじめ設定し、それぞれについて評価を行うこととしている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
エクステリアデザイン	住宅及び建築物周囲の最低限の緑化計画が出来るよう、植物の知識から計画まで課題を制作しながら理解する	①株式会社日谷アメリス ②西武造園株式会社
照明デザイン	授業の課題でデザイン照明制作があり、固定概念に囚われず様々な照明を拝見し照明とは何か、デザインをする上で何が大切かを学ぶ。自分自身のデザインの理解や業界・職種に関する知識を深める。また、就職の幅を広げる。	(株)ディクラッセ
住宅概論	住宅の室内環境について温熱環境の基礎知識を座学で学び、そこで得た知識を校外の施設で実体験することにより、温熱環境の重要性を理解し、室内環境の設計技術を学ぶ。	株式会社LIXIL LHT ZEH推進事業部
インテリアデザインA	インテリアデザインの計画に必要な家具配置に必要な専門知識を得る。	株式会社ブシ
卒業制作	卒業制作の制作過程において、実務経験豊かな講師から指導を受ける事により、実践で通用する技術と知識を習得する。	株式会社ネオタイド建築計画

<b>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</b>	
<b>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</b> ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「山脇美術専門学校教員研修内規」に則り、教員に対し現在就いている教育職又は、将来就くことが予想される教育職に係る職務の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教員の能力及び資質の向上を図ることを目的とする。 教員に対する研修の必要性を把握するとともに、教員の自己啓発の意欲を発揮させるように配慮し、研修計画に基づく研修を実施する。 研修の参加については、職務内容や経験年数を考慮したうえで、学校長が指示する。	
<b>(2) 研修等の実績</b>	
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>	
研修名: 「SNSで話題の暮らしと住まいのトレンド」	連携企業等: 一般社団法人 日本インテリア協会
期間: 令和4年10月28日(金)	対象: スペースデザイン科の教職員
内容 SNSで話題の暮らしと住まいのトレンドを知ることで、豊かな暮らしができるテクニックの解説。質疑応答。	
研修名: 「Vectorworks Live 2023」	連携企業等: エーアンドエー株式会社 イベント事務局
期間: 令和4年12月2日(金)	対象: スペースデザイン科の教職員
内容 Vectorworks 2023版の新機能について具体的な事例のデモンストレーションを交えてのレクチャー。質疑応答。	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: 「PSAフィードバック講習会」	連携企業等: 株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間: 令和4年7月27日(水)	対象: 全教職員
内容 事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。	
研修名: FCEエデュケーションセミナー「『やり抜く力』を伸ばす」	連携企業等: 株式会社FCEエデュケーション
期間: 令和4年10月12日(水)	対象: 全教職員
内容 具体気的な専門学校の取り組み事例を受けて、学生の自己肯定感を高める工夫や、教員のコーチングへ取り入れるスキルを学ぶ。「学生の非認知能力についての悩み」、「教員の指導についての悩み」の事例紹介。セルフコーチングについての説明。他校の取り組み事例などの紹介(動画視聴)	
<b>(3) 研修等の計画</b>	
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>	
研修名: インテリア関連のセミナー	連携企業等: 公益社団法人インテリア産業協会
期間: 令和5年4月～令和6年3月の間	対象: スペースデザイン科の教職員
内容 インテリア等に関する基礎知識の習得、ICやKSの職業人としての能力向上等を目指した研修。	
研修名: 3Dグラフィック系のソフト関連のセミナー	連携企業等: エーアンドエー株式会社など
期間: 令和5年4月～令和6年3月の間	対象: スペースデザイン科の教職員
内容 3Dグラフィック系のソフトに関わる、最新情報やスキルアップを図るセミナーやワークショップなど。	
研修名: デザイナー向けAdobeアプリケーション関連のセミナー	連携企業等: 株式会社Too
期間: 令和5年4月～令和6年3月の間	対象: 全教職員
内容 Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorなど操作に関すること、作業効率上がる最新の情報提供など、具体的なデモンストレーション交えながらのセミナーなど。	
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>	
研修名: PSAフィードバック講習会	連携企業等: 株式会社 ヒューマン・キャピタル・コンサルティング
期間: 令和5年7月27日(木)	対象: 全教職員
内容 事前にPSAパーソナリティ診断を実施。学生は、診断結果をもとに、PSAの目的を理解する。自分の個性を掴み、活かしのヒントを得る。教職員は、学生指導の精度を高めるための手がかりとして活用する。学生のやる気を高める関わり方や信頼関係を築くヒントを得る。講習後に意見交換会を行い、具体的な指導や対応方法などを教授する。	
研修名: メンタルヘルスサポート、コミュニケーション、コーチング研修など	連携企業等: 各種団体や企業が主催
期間: 令和5年4月から令和6年3月の間	対象: 全教職員
内容 コミュニケーションやメンタルヘルスケアに関わる研修やセミナーに1～2回受講予定。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学生が質の高い実践的な職業教育を享受できるよう、学校運営の改善と発展を目指すため、学校が自己点検・自己評価を行う。実践的な職業教育を目的とした、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成の適切さ等について評価を行うことが目的となる。また卒業生・企業・業界団体等の学校関係者を選任し、自己評価結果についての改善に向けた専門的な助言を受け、組織的・継続的な改善を図る。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)学校運営(3)事業計画(4)運営組織
(3)教育活動	(8)教育活動(9)教育方法・評価等
(4)学修成果	(10)成績評価・単位認定等(13)学習成果(14)資格・免許の取得率
(5)学生支援	(11)資格・免許取得の指導体制(16)学生支援(18)学生相談(19)学生生活
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生の募集と受け入れ
(8)財務	(28)財務(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関係法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	(36)社会貢献・地域貢献・国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者より「情報セキュリティ対策は適宜、アップロードしていくことが重要」との意見をいただき、個人情報などの情報管理を強化するため、学内サーバーへの各部署や役職ごとのアクセス権限を厳密にした。

「学外での就業体験により、学びと仕事の繋がりを理解できるカリキュラムがあると良い」との意見をいただき、企業連携授業の協定企業開拓に努め、令和4年度の13社(ビジュアルデザイン科2社、スペースデザイン科6社、ジュエリーデザイン科5社)から令和5年度はビジュアルデザイン科5社、スペースデザイン科3社、ジュエリーデザイン科1社を追加し、合計22社と企業連携協定を結び、職業実践的な授業が充実した。また、インターンシップ受け入れ企業の開拓と学内での企業説明会を増やした結果、インターンシップ参加学生が6人増加した。

「デザインが社会や地域にどのような形で貢献できるかを体感できるプログラムがあると良い」との意見をいただき、企業や団体の主催によるアンカトダイヤモンドコンテスト、ピンバッチコンテスト、大和市ポスターコンペへの出品を授業課題に取り入れるようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
久保寺健郎	九段振興組合 理事	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	地域等委員
松尾貴之	株式会社スピリッツ プロデューサー	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
今川清信	杜陵印刷株式会社 課長	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	企業等委員
須藤加代子	会社員	令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年)	卒業生等

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/07gakkokankeishahyoka.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教職員による学校の理念・目標に照らして自らの教育活動を評価した「自己評価」、及び「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に対応した項目を公開することにより、企業等の学校関係者から有益な助言を得ることによって教育の質的な向上を図る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	2. 教育方針と各学科の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育と就職支援、職業実践教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. さまざまな教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学費と経済的な支援
(8) 学校の財務	8. 財務情報
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	〇〇〇〇〇
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://yamawaki.ac.jp/pdf/openinfo/yamawaki-basic-information.pdf>

公表時期: 令和5年7月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			インテリアデザインA	身の回りの寸法を理解して、テーマに基づいた空間のデザインを行います。各自の個室を対象としテーマの設定してインテリア計画を行います。生活空間として、機能的で快適な空間を計画する基本知識を学びます。	1通	84		△	○		○			○	○	
2	○			住宅デザインA	課題「私の家」基本計画です。	1後	42		△	○		○				○	
3	○			建築基礎製図	木造住宅の各種図面をトレースする事で、建築の構成、構造、材料を理解します。	1前	42		○		△	○				○	
4	○			建築製図A	建築の構成、計画、構造、材料を理解し建築製図を手描きで描きます。	1後	42		○			○				○	
5	○			2D CAD	CADの環境設定から基本操作を学び、製図、プレゼンテーションにまでつなげて行きます。	1後	42		△	○		○				○	
6	○			住宅概論	建築の基礎となる住宅について学び、空間デザイン学習への足がかりとします。住宅は個人の資産であるが、公共の資産でもあります。個から全体を考えられる視点を学びます。	1前	42		△	○		○				○	○
7	○			建築パース	イメージした空間や形をパースで描きます。基本ルールから上手に描くコツを学びます。	1後	42		△	○		○			○		
8	○			色彩A	テキスト、ワークノート、カラーカードを用いて、色彩検定3級程度の色彩の基礎を理解します。身の回りのものから、さまざまな色彩の役割を理解します。理論を実践に置き換えた課題の制作します。	1前	42		△	○		○				○	
9	○			PC基礎	PhotoshopとIllustratorの基本操作を通して、コンピュータでグラフィック制作に必要な基本操作、基礎知識を学びます。また、随時コンピュータのセットアップを行いながら、専門用語等を紹介します。	1前	42		△	○		○			○		
10	○			インテリアデザイン史	家具デザインの時代変遷からスペースデザインを考えます。特徴の捉え方なども含め、過去から学ぶデザインも学びます。	1前	24		△	○		○				○	
11	○			インテリアコーディネート	インテリアスタイルを理解すると同時に表現力をつけます。	1前	18		△	○		○			○		
12	○			模型	図面を読み取り立体を作り上げます。3次元でインテリア建物のデザインを計画します。	1後	42		△	○		○				○	
13	○			発想演習	デザインの発想に必要な既成概念にとらわれない柔軟な考え方を演習を通してトレーニングします。言葉からイメージした空間や形を表現します。	1前	42		△	○		○				○	
14	○			デッサン・ドローイング	描写表現の基礎を学びます。	1前	42		△	○		○			○		
15	○			平面構成・立体構成	デザインの基礎となる造形感覚や構成力を養います。	1前	42		△	○		○				○	







52	○		家具デザイン	家具を3面図としてしっかりと捉え、どう視覚化するかを学びます。コンセプトに基づいた自由な発想、素材からの家具デザインを考えます。特定の人をイメージし、どんな人がどのようなシーンで使用するかを考えます。	3前	42	△	○	○	○									
53	○		ディスプレイデザイン	企画やデザインを構築するための情報収集やイメージ収集をWEB等を活用し、問題点の抽出からどのように課題を解決させるのかをコンセプトとしてまとめ、プラン、CG、模型などでイメージを表現し、企画書にまとめます。	3後	42	△	○	○	○									
54	○		デザインビジネス論	デザインのビジネスプロセスをマーケティングを通じた広い視野で見渡すことによってデザイン能力・知識を必要とするの仕事があることを多く知り、その役割とクリエイティブ全体を意識する力を身につけることで実社会における提案力と即戦力を養います。	3前	27	△	○	○	○									
55	○		CG B	コンピュータを活用した、プレゼンテーション表現、技法、技術の習得をします。	3前	42	△	○	○	○									
56	○		3D CAD B	3DCAD-Aで身につけた基本を踏まえた上で、さらに高度な知識と応用操作を学びます。	3後	42	○			○									
57	○		研究制作3	授業課題、またはコンペ課題などを各自の自由で制作を行います。資格試験用の補講授業などを行います。	3後	96	△	○		○									
58	○		色彩B	2級建築士の試験項目の一つである「マンセル表色系」の理解をします。	3後	24	△	○		○									
59	○		レポートファイル制作・見学・就職講座3	展覧会などの見学、見学レポートの制作をします。授業課題のまとめます。	3通	84	△	○		○	○								
60	○		建築計画ゼミ	施設内容、テーマを各自が設定し、その建物の基本設計をします。	3通	126	△	○		○									
61	○		店舗計画ゼミ	図面の読解力を身に付けプロを目指す高度な図面制作力を養います。立地条件及び周囲の環境を配慮し、複合的商業施設計画を創造します。仕上材、設備等の細部までを把握し詳細図を制作します。	3後	126	△	○		○									
62	○		卒業制作	習得した技術知識の集大成として、卒業制作を行います。建築計画、店舗計画から課題を選択し設計デザインを行います。	3後	150	△	○		○									○
63	○		課外授業	入学式・ガイダンス、研修旅行、テーブルマナー、大掃除、学生作品展、山脇祭、芸術鑑賞、教養講座、東京都専門学校アート&デザイン展、卒業・進級制作展など。	3通	60		○		○	○	○							
合計						63	科目	3276 単位 (単位時間)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	出席率が80%以上であること、課題の提出が100%であること、学年の全科目の成績が60点以上であること、学費等納付金が完済であること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	1年生は必修授業1050時間、2年生は必修授業1050時間、3年生は必修授業924時間・選択授業より1科目126時間を履修する。	1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。